

医療情報部

1. 施設の整備状況

(1) 現状の概要

1) 設備

病院総合情報システム（レンタル） 一式
ACOS (PX7600)、診療サーバ (NX7000) 外
病院LAN設備（買取） 一式

2) 人員構成

教授 1名（医学情報センター長と兼任）
助教授 1名（医学情報センター副センター長と兼任）
事務は、庶務課情報処理係 7名で所掌している。

(2) 稼働状況、実績

平成11年1月に1)設備のとおり機器更新を行い汎用オーダシステムからC/Sのオーダシステムへ移行し、システムを24時間安定稼働させている。

2. 点検・評価（平成9年度～12年度）

(1) 効率化

1) IT化

平成12年3月に注射オーダおよび手術予約オーダを導入し、平成13年3月に外来診療予約オーダの導入を行った。現在病名オーダのPC化や蓄積された診療データ等を利用者が取り出せるような仕組みの構築、端末からの放射線画像参照および次期システム以降で導入が期待される電子カルテシステムについて勉強会を開催し取り組んでいる。

2) 部門の統合・廃止

平成7年度に医学情報センターを教育部、研究部、医療情報部の3部で組織し発足させたが、平成11年度に医療情報部が訓令施設として設置され、医学情報センターより分離した。

3) 収益性

人件費の削減
物流管理
業務の効率化
病院経営のための統計データ抽出

(2) 貢献度

1) 院内

病院業務の合理化、オーダ伝達の正確化と迅速化、保険診療の適正化、経営的病院運営の確立に貢献している。三菱総研による病院経営分析に関する経営情報の提供を行い、今後の経営分析に向けた診療データベース化の作成を進めている。

2) 院外

診療情報として蓄積されたデータを教育・研究データとして、利用の申請に基づき提供

している。

3) 地域社会

ホームページによる病院の広報を行っている。WWWブラウザと電子メールの機能を組み合わせた遠隔医療支援システムを立ち上げて地域医療支援を開始するところである。

(3) 高度先進医療、医学の進歩への対応

- 1) 衛星医療情報ネットワーク (MINCS-UH) を利用した高精細医用画像の提供
- 2) 多様かつ高度な医学情報取得のための情報ネットワーク整備

(4) 組織の柔軟性 (人事交流)

システムの開発運営に病院の教職員からなる班やワーキンググループを立ち上げて進めている。

(5) 情報発信度

- 1) 院内向けに、BUNGO Informationの発行、BUNGO概要の発行を行っている。
- 2) 院内、院外向けにホームページを利用して、情報発信を行っている。大学病院衛星医療情報ネットワーク (MINCS-UH) の放送番組の募集ならびに放送予定番組の案内、受講の受付案内を行っている。

(6) リスクマネジメント

- 1) 処方、注射オーダーリングでは、薬剤部に協力して処方や注射オーダーのミス防止に努めている。
- 2) 患者誤認防止のためのリストバンド用に情報提供を行っている。
- 3) 検査や処置等における患者取り違いやミス防止のため関連の部署と協力してシステムの補強を行っている。
- 4) またインシデント、アクシデントの紙面による報告からドキュメントファイリングシステムを利用したシステム構築のため医療安全管理部に協力している。

(7) 教育

- 1) 4月に新採用の医員、研修医に対しBUNGOの操作研修を実施している。
- 2) MINCSで放送された番組をVODで視聴できるように進めている。

(8) 研究

卒前卒後教育のオンライン教材 (画像) の作成

(9) 学会活動

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	0回	0回	0回	0回
(国内)	0回	1回	1回	1回
(地方)	0回	0回	0回	0回
(司会・座長)	0回	0回	1回	1回
シンポジウム特別講演等 (国際)	0回	0回	0回	0回
(国内)	0回	0回	0回	0回
(地方)	0回	0回	0回	0回
(司会・座長)	0回	0回	0回	0回

学会役職 (評議員、理事等) (平成9年度～平成12年度)	
日本核医学学会	三宅 秀敏 (推薦評議員)
日本民族衛生学会	島岡 章 (評議員)

3. 問題点とその対策

電子カルテのシステムの導入が求められているため、全ての診療情報の電子化、オーダーリングシステムの導入拡大を計画的に行っていく。

4. 施設の将来展望

院内診療支援、病院経営支援、リスクマネジメントへの貢献、教育研究支援、患者さんへの医療教育のための情報提供、地域医療支援をキーワードにシステム構築を進める。